

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

第22号: 2025年8月25日(月) ~ 2025年8月31日(日) 報道分

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025（日経 XTech 編）の第 22 号を配信いたします。

<目次>

- ☐ 8/25 (月)
- ☐ 8/26 (火)
- ☐ 8/27 (水)
- ☐ 8/28 (木)
- ☐ 8/29 (金)
- ☐ 8/30 (土)
- ☐ 8/31 (日)

☐ 8/25 (月)

目次へ

- ☐
- 8/26 (火)

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/info/18/00001/082500213/>

【8/26・日経 XT】ニュース解説 NTT データと豊田市が地域企業の脱炭素支援の情報基盤で実証、他地域への展開も視野 森岡 麗 日経クロステック／日経コンピュータ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/11035/>

NTT データと豊田市は、地域企業の脱炭素を支援する情報基盤の実証実験を開始しました。補助金や支援制度の情報を一元化し、マッチングや資金調達の支援も提供することで、中小企業の取り組みを後押しします。さらに企業自身が脱炭素の取り組みを発信でき、地域経済の活性化にもつなげます。AI を活用した最適情報の提示や申請書類作成支援も検討されており、全国展開を視野に標準モデル構築を進めています。

[目次へ](#)

□ 8/27 (水)

【8/27・日経 XT】 高まる夏型結露リスク 第 1 回 全国で高まる夏型結露の発生リスク、露点温度上昇に住まい方の変化が背景に 荒川 尚美 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03303/081900001/>

夏型結露による建物被害が全国的に増加しており、カビの発生や木材劣化が深刻化しています。背景には気候変動による露点温度の上昇や冷房利用時間の増加、住宅仕様や住まい方の変化があります。特に基礎断熱の床下や壁体内での発生が目立ち、修繕費は住宅で数百万円から 1000 万円規模に及ぶこともあります。外気浸入や放湿型結露もリスクを高め、今後さらなる対策が求められています。

[目次へ](#)

□ 8/28 (木)

【8/28・日経 XT】 夏型結露にご用心 非住宅の夏型結露対策「従来通りでは結露が起こる」、仕様を見直し除湿を徹底 守山 久子 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00286/081400007/>

非住宅建築物でも夏型結露が増加しており、従来の設計では対応できない事例が報告されています。背景には気候変動による外気露点温度の上昇があり、常温倉庫や低温室周辺などで被害が発生しています。対策の基本は「除湿」で、空調空間では設定湿度を下げ、非空調空間では外気流入の防止や除湿機の導入が有効です。さらに断熱強化や再熱除湿などの設備改修も必要とされ、今後は建築仕様や設備の標準を見直す重要性が高まっています。

【8/28・日経 XT】 テクノロジーリーダー名鑑 原子力の国内新興、黒鉛蓄熱を經由 ゴールの高温ガス炉と「相乗効果」 齊藤 壮司 日経クロステック／日経エレクトロニクス

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03181/081900011/>

Blossom Energy は、黒鉛を用いた蓄熱装置の開発を進め、2025 年内に養殖施設や温浴施設で実証を開始し、化石燃料ボイラーの代替を狙っています。黒鉛は高温ガス炉の構造材としても使われ、CEO 濱本氏の知見を応用した技術です。再エネ電力を活用すれば脱炭素化に寄与し、長寿命や低ランニングコストも強みです。黒鉛蓄熱事業は将来の高温ガス炉商用化とも相乗効果を持ち、国内の熱エネルギー貯蔵市場拡大を牽引する構想です。

【8/28・日経 XT】 ニュース プロジェクト 第一生命の「国内最大級」木造ビルが完成 国産材 1000m³ 超を使用、高さ 56m の木混構造ビルを実現 小山 航 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00007/081500265/>

第一生命と清水建設は、国産材約 1100m³を使用した国内最大級の木混構造ビル「第一生命京橋キノテラス」を完成させました。高さ 56m の地上 12 階建てで、約 740 トンの CO₂を固定し、鉄骨の 7 割に電炉材を採用することで建設時排出量を約 37.5%削減しました。清水建設独自の木質構法「シミズ ハイウッド」を活用し、無柱の大空間や耐火構造を実現。木の需要増を背景に、持続可能な都市建築の象徴となる事例です。

【8/28・日経 XT】トピックス 脱炭素大改正で着工 25%減 審査期間も長期化傾向 池谷 和浩 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00012/081500086/>

2025 年度第 1 四半期の新設住宅着工戸数は前年同期比 25%減となり、4 月施行の「脱炭素大改正」に伴う審査の長期化が大きな要因とされています。改正建基法・省エネ法による確認申請の煩雑化や審査日数増加が混乱を招き、地域差も顕著です。国交省はサポートセンターを設置したものの利用は低調で、業界団体は改善を要望しています。市場縮小傾向が続く中、年度全体でも新築住宅の大幅減少が避けられない見通しです。

【8/28・日経 XT】トレンド解説 from 日経エネルギーNext 長期脱炭素電源オークション、リチウムイオン電池の募集量激減へ 川本 周 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02421/082000092/>

経産省が進める長期脱炭素電源オークションの第 3 回入札では、リチウムイオン電池の募集量が大幅に削減され、従来の 1GW から 0.4GW に縮小されます。特定技術への偏重を避けるための措置であり、海外製セルには「製造国 30%制限」も導入されます。また、参加要件として運転継続時間 6 時間以上が必須となり、従来の 3～6 時間の電池は対象外となります。これにより、リチウムイオン電池の参入環境は一段と厳しくなっています。

【8/28・日経 XT】トピックス 土の 3D プリンター住宅完成 耐震等級 3 相当、販売価格は 6000 万円 小山 航 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00012/081500088/>

熊本県の住宅会社リブワークは、土を主材料とした建設 3D プリンター住宅「Lib Earth House model B」を完成させました。延べ 100 m²の平屋で、セメントを使わず自然由来の材料のみを採用し、CO₂排出を従来の住宅の約半分に削減します。耐震等級 3 相当の性能を持ち、太陽光発電とテスラ蓄電池でエネルギー自給も可能です。販売価格は 6000 万円と高額ながら、富裕層向けに展開し、2040 年までに 1 万棟の普及を目指すとしています。

【8/28・日経 XT】夏型結露にご用心 夏型結露の実態 露点温度上昇に住まい方の変化、高まる夏型結露の発生リスク 荒川 尚美 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00286/081400001/>

夏型結露による建物被害が全国的に増加しており、カビの繁殖や木材劣化が深刻化しています。背景には気候変動による露点温度の上昇や冷房使用時間の長期化、住宅仕様や住まい方の変化があります。特に基礎断熱の床下や壁体内での被害が多く、修繕費が数百万円から数千万円規模に達する例もあります。また、外気侵入による結露に加え、建材が水分を放出する放湿型結露のリスクも顕在化しており、今後の対策強化が求められています。

[目次へ](#)

□ 8/29 (金)

【8/29・日経 XT】ニュースの深層「K2025」が発信する 3 つのキーワード、循環経済・デジタル・社会的責任 小松 勝男 小松技術士事務所副所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/nmc/18/00011/00316/>

世界最大級のプラスチック展示会「K2025」が 10 月にドイツで開催されます。今回のコンセプトは「The Power of Plastics! Green – Smart – Responsible」で、循環経済を推進する「Green」、デジタル技術で効率化を進める「Smart」、環境保護や人材育成など社会的責任を果たす「Responsible」という三つのキーワードが示されました。これにより、プラスチック産業の今後の方向性が世界的に発信される場となります。

□ □